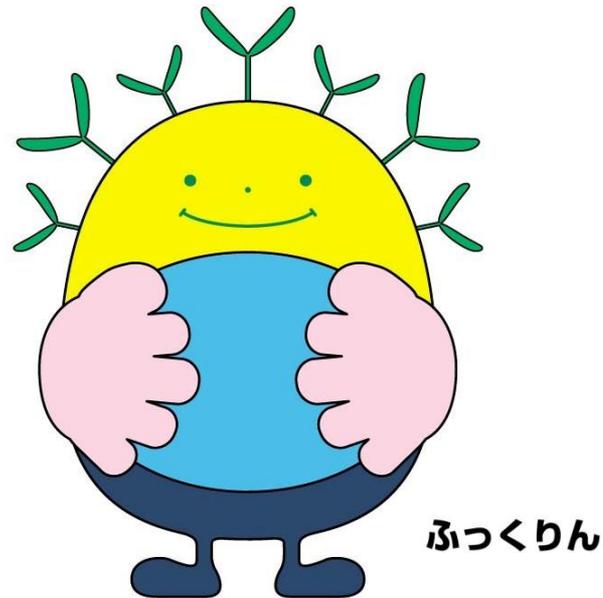


平成30年度 森づくりに関する施策の実施状況



目 次

	ページ
1. ふくいの森林・林業基本計画(概要)	1
2. 計画の目標と実績	3
3. 平成30年度の取り組み	
① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト	4
② ふくいの木80万本活用プロジェクト	5
③ ふくいの里山100宝山プロジェクト	6
④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト	7

1. ふくいの森林・林業基本計画(概要)

① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

山ぎわを中心に間伐を進め、低コスト化により県産材の生産量を倍増する

県産材生産量 116千 m^3 → 195千 m^3

○ 山ぎわでの間伐を進める

- ・山ぎわ間伐を推進 (間伐材搬出拡大、美しい景観創出)
- ・集落ぐるみで取り組むコミュニティ林業を拡大
- ・GPSを活用して間伐の前提となる森林境界の管理を促進

○ 生産コストを下げる

- ・県有林と民有林等の一体化による新たな木材生産団地「県民共働の森」を設定
- ・林内路網1.5倍の整備と高性能林業機械の導入促進
- ・低コスト搬出技術の開発 (機械メーカーとの共働)

○ 流通コストを下げる

- ・A、B、C材に選別し、効率的に出荷するための「ウッドターミナル」等を設置
- ・「ウッドターミナル」等から需要先へ直送

○ 県有林(旧公社林等)からの供給を拡大する(木材収入の拡大)

- ・列状間伐の導入等による低コスト化
- ・民間活力を活かした新たな委託方式の導入

○ 森づくりを担う人材を育成する

- ・競争力のある民間事業体の育成 (森林組合との連携強化や低コスト搬出技術の習得等)
- ・「ふくい林業カレッジ」を設置し、林業の専門知識を有した若い世代の人材を確保
- ・フォレストワーカーやフォレストプランナーを確保・育成
- ・経営意欲の高い林家の育成

② ふくいの木80万本活用プロジェクト

住宅・オフィス・街並みづくりや木質バイオマス発電などで県産材をフルに活用する

住宅での県産材使用率 36% → 50%

○ 県産材製材品の競争力を高め利用を拡大する (A材)

- ・工務店が求める人工乾燥材「福井ドライ材」の供給を拡大
- ・「ふくいブランド材」および「福井ドライ材」を工務店のニーズに応じ安定的に供給

○ 住宅での県産材の利用を50%に拡大する (A材)

- ・川上から川下までが連携した家づくりの推進
- ・県産材あふれる街並みづくりの推進(住宅団地やパブリックスペースでの利用を促進)

○ 新たな分野での利用を開拓する (A材)

- ・1企業1木質化運動の展開(民間企業での利用拡大)
- ・マンション、オフィス家具等での利用開拓
- ・新たな工法による中大規模施設の木造化・木質化(CLT・トラス梁工法)
- ・県産材の活用創出等に対する表彰制度の創設
- ・県外や海外へ向けて県産材の販路を開拓

○ 合板、集成材での利用を拡大する (B材)

- ・生産、流通の低コスト化による合板、集成材での需要の安定化

○ 木質バイオマスでの利用を拡大する (C材)

- ・木質バイオマスの発電での利用に加え地域での熱利用を推進

ふくいの森林・林業基本計画(概要)

③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

林地残材や薪、特用林産物など森林資源を活用し、里山におけるビジネスを創出・拡大する

特用林産物の新たな品目等の生産拡大 10品目以上

○ 特用林産物を振興する

- ・地域ならではの新たな品目・商品の開発や施設整備による生産拡大(菊炭、ジャンボしいたけ、サマツ、椿油、薬木、マイタケ等)
- ・全国に誇れる本県の特用林産物の生産技術を後世に残すため、伝統技術を継承(くず、オウレン、うるし、コウゾ・ミツマタ等)

○ 「山の市場」で林地残材等を販売する

- ・林地残材等を自伐林家が生産・収集・販売する場の整備

○ 里山をエネルギーとして利用する

- ・園芸施設等で木質バイオマスを利用し里山資源を活用

○ 都市部から里山へ誘客する

- ・オーベルジュやオーナー農園など里山の魅力を活かし、都市部との交流を促進
- ・福井平野を一望でき、山や史跡等を巡る作業道等を活用したトレイルコースの設定や、森林浴など里山資源を活用した体験活動の推進

④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

奥山での針広混交林化など次代につながる森づくりを進める
県民が森や花に関わる運動を拡大・強化し、緑や花に親しむ人を増やす

奥山での針広混交林化	26ha	→	900ha
県民運動参加者数	4万9千人	→	6万人

○ 県有林(旧公社林等)など奥山の人工林は針広混交林化等を進める

- ・列状間伐等により針広混交林、広葉樹林に誘導

○ 災害・獣害・病虫害に強い森づくりを進める

- ・治山施設や森林整備の一体的な実施を推進
- ・森林組合のシカの個体数管理への参画や抵抗性アカマツの植栽等を推進
- ・獣害軽減につながる山ぎわでの間伐や作業道等の整備を推進

○ 30年で利用できる有用樹種を選定する

- ・高成長な有用樹種を選定し、山ぎわでの資源の循環を促進(センダン・コウヨウサン等)

○ 里山の景観を再生する

- ・里山において、雑木や侵入竹林の除去、花木の植栽等の景観保全対策を推進

○ 花粉発生源対策を進める

- ・スギ林の主伐を促進し、花粉の少ない森林へ転換するとともに、無花粉スギを作出

○ 緑と花の県民運動を永続的に展開する

- ・全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を拡大・強化

○ 国体開催に向けた花いっぱい運動を拡大・強化する

- ・花によるおもてなしを推進するため、花いっぱい運動を拡大・強化

2. 計画の目標と実績 (計画期間H27～H31)

	【H30年度実績】		【H31年度目標】
① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト			
○ 県産材生産量	190,000		195,000 (m ³ /年)
○ コミュニティ林業	135		150 (集落)
○ 民県共動の森	40	⇒	50 (箇所)
○ フォレストワーカー	559		625 (人)
○ 間伐生産性	5.4		6 (m ³ /人日)
② ふくいの木80万本活用プロジェクト			
○ 住宅1棟あたりの県産材使用率	44	⇒	約50 (%)
③ ふくいの里山100宝山プロジェクト			
○ 特用林産物 新たな品目等の生産拡大	9	⇒	10 (品目)
④ 次代につながるふくい森と花プロジェクト			
○ 針広混交林化	807		900 (ha)
○ 緑と花の県民運動参加者	60,189	⇒	60,000 (人)

3. 平成30年度の取り組み

① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

- ・コミュニティ林業は、集落での説明会やリーダー研修会などにより、20集落で木材生産組合が設立
- ・山ぎわを中心にGPSを活用した森林境界の明確化を実施
- ・民有林と県有林が一体となった木材生産団地「民県共動の森」を10箇所設置
- ・開校3年目を迎えた「ふくい林業カレッジ」では、UIターン3名を含む6人を育成



コミュニティ林業取組状況
(おおい町名田庄中)



境界の明確化
(越前市国中町)



林業カレッジ研修
(永平寺町藤巻)

▼事業の成果▲

○ 県産材生産量	190,000 m ³ /年	○ 民県共動の森	40 箇所(累計)
○ コミュニティ林業	135 集落(累計)	○ 間伐生産性	5.3 m ³ /人・日
○ フォレストワーカー	559人		

② ふくいの木80万本活用プロジェクト

- ・県産材を使用する住宅の新築およびリフォームに対し支援
- ・民間施設の木造・木質化、木製品の導入に対し支援
- ・年縞博物館および国体施設、小浜市美郷小学校など公共施設における利用を推進
- ・大規模展示会への出展などによる都市圏における販路の開拓



住宅での利用推進



年縞博物館（若狭町）



モクコレ2019 出展

▼事業の成果▲

○住宅1棟あたりの県産材使用率 44 %

③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

- ・香福茸や原木まいたけは、原木などの資材支援や生産技術研修会を開催
- ・ササの有効活用を図るため、6次化商品の開発や技術研修会に支援
- ・林業遺産に認定された越前オウレンは、後継者対策のための栽培地現況調査を、研磨炭は新たな商品開発に支援
- ・越前和紙の原料となるコウゾの植栽に支援



香福茸
(ジャンボしいたけ)



ササ



越前オウレン



研磨炭



コウゾ

▼事業の成果▲

○特用林産物 新たな品目等の生産拡大 9品目(累計)
(研磨炭、香福茸、菊炭、薪、まいたけ、コウゾ、ササ、熊川くず、原木まいたけ)

④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

- ・県有林において列状間伐を実施し、針広混交林化を推進
- ・企業の森の活動は、県内4箇所において、広葉樹を植栽
- ・花や花木を植栽する『花の回廊づくり』を全市町において実施
- ・国体・障スポ競技会場や観光地の周辺など、県内各地で地域団体等と花を植栽



列状間伐
(勝山市奥山)



企業の森による広葉樹の植栽
(前田建設工業(株)MAEDAの森)



花の回廊づくり
(あわら湯のまち駅前)

▼事業の成果▲

○針広混交林化	807 ha(累計)
○県民運動への参加者数	60,189 人